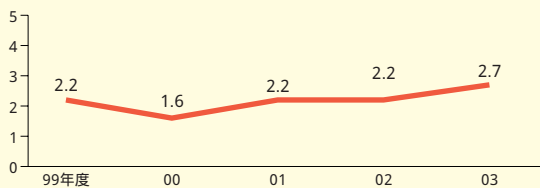
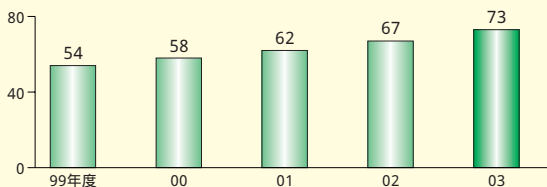


主要経営指標の推移

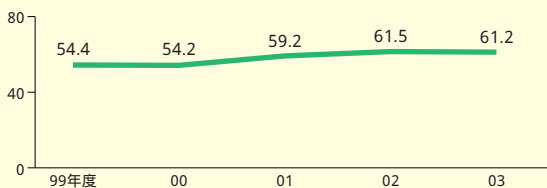
● 売上高当期純利益率(%)



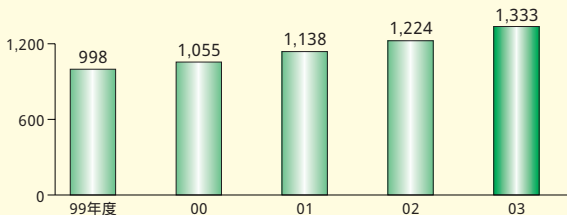
● 株主資本(億円)



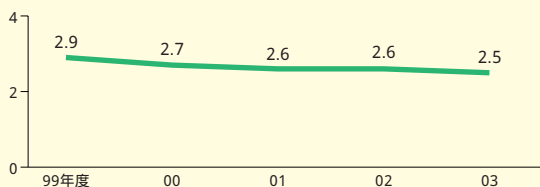
● 株主資本比率(%)



● 株当たり株主資本(円)



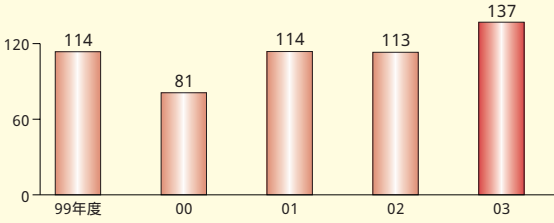
● 総資産回転率(回)



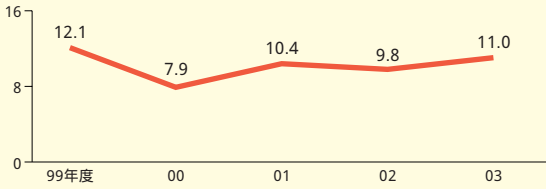
主要経営指標の推移

03年より連結のデータです。

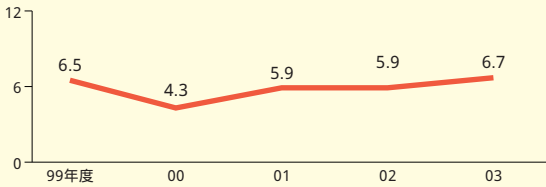
● 株当たり当期純利益(円)



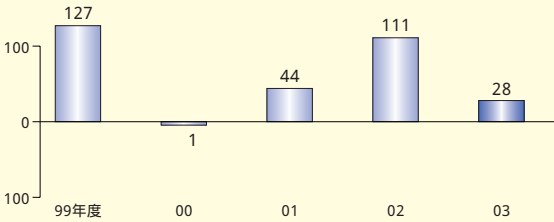
● 株主資本利益率ROE(%)



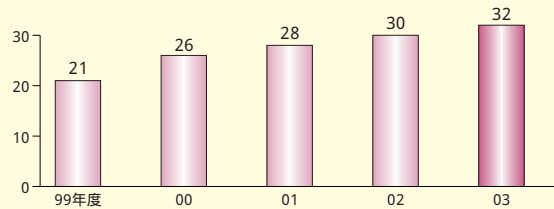
● 総資産利益率ROA(%)



● 営業活動による株当たりキャッシュフロー(円)

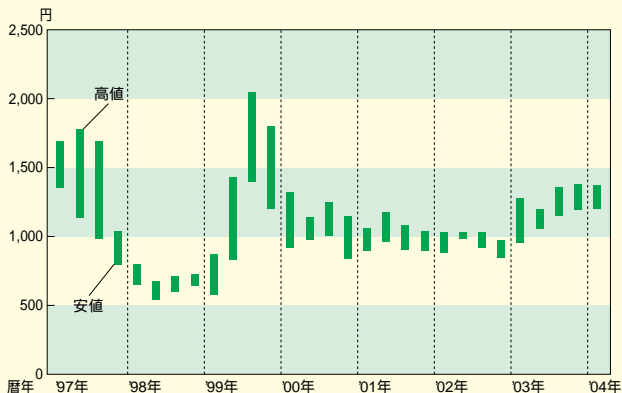


● 株当たり配当金(円)



主要経営指標の推移

株価の推移



IR活動レポート

当社は「豊かに持続すること」を企業目的とし、オーナーさまにも十分に報いるため配当金30円と配当性向30%をガイドラインとする株主重視の施策を実践しております。

当社株式の特性は高い配当金と配当利回りであると思っております。この特性を享受していただく長期保有志向の個人投資家様を主たる対象としてIR活動をしております。

昨年末、中嶋社長（現会長）の持株から43万株を個人投資家向けに売出しを実施いたしました。当社は金融機関と株式の持ち合いをしておりませんので、まとまった株式がなく、大株主が株式を提供することになりました。

この売出しは、市場から高く評価され、1.7倍の申し込みをいただき、期末の株主数は2,740人、内個人株主数が2,529人と前期比380名の増加となりました。同時に流動性も高まり、その後の株価は売り出し価格を上回って順調に推移しております。当期も「持続する収益力」と「増配（6期連続）」を継続しております。これらの実績を通して当社の株主重視の経営姿勢をご評価いただけたらと思っております。

今後とも、みなさまに長期保有のメリットを享受していただけるよう経営努力とIR活動を実践して参ります。

会社概要

| | |
|--------|--|
| 商号 | S P K株式会社 |
| 証券コード | 7466 (東京証券取引所市場第一部) |
| 本社所在地 | 〒553-0003 大阪市福島区福島五丁目5-4 電話06-6454-2571 FAX06-6454-2494 |
| ホームページ | http://www.spk.co.jp/ |
| 会社設立 | 1917年(大正6年) |
| 営業目的 | 自動車部品・用品/卸・輸出入 産業機械車両部品/企画・販売 |
| 取引銀行等 | (株)UFJ銀行・(株)みずほ銀行・(株)東京三菱銀行・ (株)りそな銀行・UFJ信託銀行(株) |

役員 (平成16年6月22日以降は下記役員構成を予定しています)

| | |
|------------------|---------------------|
| 代表取締役会長 | 中嶋 功 |
| 代表取締役 兼社長執行役員 | 小高伸介 |
| 取締役 兼常務執行役員 | 海外営業本部長 砂川裕伸 |
| 取締役 兼常務執行役員 | 国内営業本部長 角田孝治 |
| 執行役員 | 管理本部長 中田陽市 |
| 執行役員 | 工機営業本部長 赤穂伸也 |
| 執行役員 | 商品部長 沖恭一郎 |
| 執行役員 | 東京営業所長 木林靖治 |
| 執行役員 | 近畿営業所長 畠 昇 |
| 執行役員 | カスタマイズパーツ部長 三原将典 |
| 常勤監査役 | 井上浩一 |
| 監査役 | (公認会計士・税理士) 榎卓生 |
| 監査役 | (弁護士) 中務尚子 |

株主メモ

| | | | |
|------------------|---|------------------|-------|
| 決算期 | 3月31日 | 定時株主総会 | 6月 |
| 利益配当金 受領株主確定日 | 3月31日 | 中間配当金 受領株主確定日 | 9月30日 |
| 1単元の株式の数 | 100株 | | |
| 名義書換代理人 | UFJ信託銀行(株) 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 | | |
| 同事務取扱場所 | UFJ信託銀行(株)大阪支店証券代行部 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号 電話 大阪(06)6229-3011(代表) | | |
| 同取次所 | UFJ信託銀行(株)本店および各支店 野村證券(株)本店および各支店 | | |
| 公告掲載新聞 | 日本経済新聞 | | |

なお、当社は決算公告に代えて貸借対照表および損益計算書を当社のホームページに掲載しております。

動くと変わる

道を走れば 景色が変わる
道に止まれば 何も変わらない
動くと変わる 変わるは動く
動く心は たくましい
誰にでも 変わる日がある
明日への 出口が見える
SPK 燃えて SPK

きょうも変わる日 SPK

これは当社のコーポレートソング「きょうも変わる日」の一節です。この3月末で、社長執行役員を退任する決断をしましたが、その心境はまさしく、この歌詞のとおりです。

14年の長きにわたり、私でも社長が務まったのは、共に働いてくれたすべてのSPKマン、熱誠溢れるご指導とご支援を賜りました多くのお取引先、そして温かく見守っていただいたオーナー（株主）のみなさまのお陰です。心から感謝申し上げます。

後任の社長執行役員（代表取締役兼務 / 昇格）に小高伸介が就任いたしますので、なにとぞ私同様ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トップインタビュー

* 予期せぬ社長交代ですね。役員定年制があると聞いていたのですが。

社員の定年は権利ですが、役員定年は超えてはならぬ限度にすぎません。当社の社長定年は68歳です。私は64歳になったばかりですが、会社の持続的な発展のためには、いまがバトンタッチのときだと判断しました。

* いまがそのときというのを説明してください。

バブルのはじけた90年に50歳で社長になり、わが国が「失われた時代」と言われた90年代と、それにつづく「デフレ不況」の、逆風の14年をひたすら人材育成をベースにして会社の変革に挑戦してきました。よき企業人（社員）とお取引先のお陰と運にも恵まれて、昨年には東証一部にまで上ることができました。今年に入り、景気は好転しはじめました。先行きも決して不透明ではなく、久し振りに中期計画を策定できる環境になってきました。計画経営を志向する当社にとって、東証一部到達後の新たな目標を決める機会が到来したのです。

* 中期目標の達成期限はいつですか。

2007年の創立90周年です。今期も含めて4年後ですが、来るべき137期のSPKをどんな企業にしたいのか、一人ひとりがどのような企業人をめざすのか、目標を明確にするスタート台に立ったのです。

* 新たな成長への主役は次世代の人たちであると。

そのとおりです。「90周年への道」への経営指針は示しますが、計画も含めて、その実行はもう私の仕事ではありません。新社長のもと、みんなが夢・目標を共有し、その実現に向かって主体的に取り組んでほしいのです。トップ人事が動けば、みんなの意識や行動が変わってくるはずです。

* 能力主義の人事制度を運用し、ジュニア・ボード（青年重役会）や蔵王坊平高原での次世代経営者錬成講座（合宿）にも熱心に取り組んでこられました。しかし、後継は同世代ですね。

ジュニア・ボードから多くの執行役員や取締役も誕生しています。着実に人材の層は厚くなっています。能力主義を厳正に運用した結果が年功序列になったのは人事の理想型といえます。抜擢人事がベストではありません。ましてや、当業界は成熟しており、当社も熟年企業ですから、急成長している業界やベンチャー企業にみられるような人事の必要性はありません。

* なぜ小高さんですか。

先頭を走っている私が振り返ったときに、自分のすぐ後ろにつけていたからです。営業時代はよきライバルでしたし、私の社長就任後は国内営業を統率しながら、よくサポートしてくれていました。彼もナンバー2に徹して、企業人生を終える予定だったと思いますが、私からもうひと働きをお願いしたのです。信頼できる有能な人です。

* そうしますと、次世代の登用は90周年の頃ということになりますか。

すべての若い人たちに、4年後のありたい姿に向かって、挑戦を始めてほしいと思います。社長についていえば、役員任期は1年ですので、新社長の任期がそこまで保障されているわけではありません。むしろ次世代が早く自分自身で這い上がってきてくれることを期待しています。

* トップの出处進退ほど難しいものはないといわれていますが。

「権力は必ず腐敗する」というのが歴史の教訓ですから、「進

挨拶

私ことこのたびSPK株式会社の社長に選任され、4月1日付けで就任することになりました。まことに非力の身に重すぎる責務ではございますが、社業の発展に専心努力いたす所存でございます。

「一流企業人になりたい」「会社を真の中堅企業にしたい」と二つの高い志を掲げ、人材育成と理念経営に取り組み、熱い想いを私どもに語りつづけてこられた中嶋前社長の偉大な功績をしっかりと受け継いでまいりたいと決意いたしております。

私に与えられた使命は、当社創立90周年の大きな節目を迎える2007年に、会社のあるべき姿を明確にし、その夢に向けて全員が力強く進んでいくことだと考えています。東証一部上場後の「新しいステージ」で、攻めの改革へシフトし、新たな成長を求めるために、変化に果敢に挑戦する企業人の集団を目指してまいりたいと存じます。

今後とも倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2004年 4月1日

社長 小高伸介

むときは人まかせ、退くときは自ら決せよ」という金言をいつも自分自身に言い聞かせていました。願わくば、やりたいこと、やらねばならないことをすべてやって、“旬”のうちに退任できればと。

* 社長退任後のポジションは。

代表権のある会長になりますが、執行の全責任は新社長にまかせます。経営機構については「監査役型」を進化させ、SPKモデルをつくります。コーポレートガバナンス（企業統治）に関心をもちながら、経営について考えていきたいと思えます。

当社の経営目的は「豊かに永続すること」です。ガバナンスの目的は企業に違法行為をさせない「コンプライアンス」と競争力のある企業を育成するための「経営の効率性」をチェックすることであると考えています。その原則は①長期にわたり株主利益の最大化を図る②執行と監督は分離する③経営の透明性を高めることです。商法の改正により、ガバナンス・モデルに委員会等設置会社の「委員会型」もありますが、社外取締役候補の人材難のう

えに、業務に精通していない社外の人にどこまで経営監視ができるか疑問でもあります。当社には適していません。

*それでも、執行役員制を導入された。

現実は取締役4名全員、執行役員を兼務していました。今回、執行役員を兼務しない会長が監督に専念することの狙いは、小さな取締役会で意思決定のスピードを維持しつつ、執行役員を監督するところにあります。当社業務に精通している私が就任しますので、株主の負託に応じて、ガバナンスの目的を十分達成できると考えています。

*会長と社長の役割分担については。

取締役会は4名の取締役と3名の監査役（2名は社外）で構成され、会長が議長を勤めます。経営方針や経営戦略、並びに重要事項を決定します。執行役員に助言し、その職務を監督します。執行役員会は執行役員と会長で構成され、社長が議長を勤めます。計画を策定し、業務を執行します。業績をコミット（約束）します。

会長は取締役会の機能を遂行する権限と責任を持ち、社長は業務執行のトップとしての権限を有し、その執行に全責任を負うこととなります。

*SPKモデルですね。

経営機構のあり方は、今は過渡期ですから各社各様があっという間だと思います。企業は社会に開かれた公器であり、時代はグローバルですので、万人に通じる透明性が求められていますし、企業自身の自浄作用も問われています。

*社長在任14年を振り返って、いかがですか。

万感の思いがありますが、必勝必達の信念と向上心で変革に挑戦しつづけてくれたSPKマンを誇りに思います。私についていえば、みなさんの協力をえて、夢を追い、夢を食う仕事をさせていただいた、妻の支えもあり、もう十分に働かせてもらったと思います。

これからは、すこし時間的な余裕をいただいて充電しながら、私の「一流企業人への道」の最終章を微力ですが、SPKの永続的な発展のために尽くしたいと考えています。

「きょうが大きく変わる日」90周年をめざして、新たな挑戦がきょうから始まります。夢を見て、夢を追う、その主役はあなた自身です。

SPK